

## 2021年度 明治学院大学 FD活動について（報告）

### ■FDとは

FD（ファカルティ・デベロップメント）は、

「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する取り組み」  
のことです。

これは、大学設置基準第25条の3に規定され、教学マネジメント指針（2019 中教審）  
においても上記を用いております。

本学においてはFD・教員評価を、

「大学の教育理念および各学部・学科・教養教育センター・教職課程、各研究科・専攻  
の教育目標に則した授業内容や教育方法を評価・改善し、教育の質の向上を図る組織的な  
取り組みの総称」（FD・教員評価検討委員会規程 第2条）

としております。

## ■2021年度のFD活動

### 1. FD・教員評価検討委員会開催

開催	議題
第1回 5月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度FD講演会(変更案)について</li> <li>・2021年度授業評価調査票(全学科共通部分)について</li> </ul>
第2回 10月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度秋学期以降の授業評価実施について</li> <li>・2022年度FD・教員評価検討委員会 実施日程(案)について</li> </ul>
第3回 3月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度・2023年度授業評価アンケート調査票の設問項目について</li> <li>・2022年度FD講演会について</li> </ul>

### 2. 「学生による授業評価」の実施

学期	実施日	実施状況
春学期	7月11日(木) ～7月22日(水)	対象授業：学部 2,479 大学院 57 実施：学部 2,458 (99.1%) 大学院 56 (98.2%)
秋学期	12月11日(土) ～1月21日(金)	対象授業：学部 2,347 大学院 57 実施：学部 2,340 (99.7%) 大学院 56 (98.2%)

### 3. FD関連学外研修会等への参加

日本私立大学連盟主催「FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)」  
 日程：8月5日、または6日  
 参加者：教員1名  
 ※新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催

### 4. 学内FD講演会・説明会の開催

2021年度FD講演会・FDワークショップ(各学部からのFD活動の報告)  
 日程：10月5日(火) 10:50～12:15 オンライン実施  
 参加者：教員44名、職員7名

- ・文学部  
 テーマ「文学部の学科課程のFD活動報告」  
 発表者：石井先生
- ・経済学部  
 テーマ「経済学部春学期の試みについて」  
 発表者：佐々木先生、生方先生、齋藤先生、西村先生
- ・社会学部  
 テーマ「社会学部の将来に向けて～2021年度FD講演会をふまえて～」  
 発表者：石原先生
- ・法学部  
 テーマ「2021年度春学期法学部FD活動報告」  
 発表者：葛谷先生
- ・国際学部  
 テーマ「2021年度春学期における国際学部と国際キャリア学科のFD活動報告」  
 発表者：合場先生
- ・心理学部  
 テーマ「教職員・学生の教育・研究促進のための調査用プラットフォーム

「Qualtrics」の概要・操作方法の講習会」

発表者：金城先生

・教養教育センター

テーマ「吉見俊哉氏講演「大学はもう死んでいる？ポストコロナ時代の大学のゆくえ」

発表者：篠崎先生

5. 学部・学科のFD活動

文学部

2021 年度文学部 FD 活動報告

学科・課程別に 2021 年度の FD 諸活動を報告する。

英文学科

学科 FD 研修会を 5 月 12 日、6 月 2 日、7 月 7 日、10 月 6 日、12 月 1 日、2 月 2 日に、将来構想委員会を 7 月 28 日、9 月 3 日に、非常勤 FD 会議を 9 月 14 日、1 月 29 日に実施し、10 月 5 日の 2021 年度 FD 講演会・FD ワークショップに参加した。

学科研修会、将来構想委員会にはほぼ構成員全員が参加した。非常勤会議は担当専任教員の司会のもと有志の非常勤教員が参加した。FD 講演会・ワークショップには所属の学部長・学科主任・院研究科主任が参加した。

以下活動内容の詳細である。

5/12 2021 年度の FD 活動案 昨年度は外部講師を招いて FD 講演会を実施したが、実践的に役立つ内容ではなかったため、今後何かより有益な FD 活動を行なっていきたいとの考えから、具体的な議題について検討された。(1) ハイブリッド授業やオンライン授業は個々の教員がさまざまなアイデアや知識を持っているものの、コロナによる教員同士が話をする機会が失われているためそれを共有しあってお互いの授業に生かす機会も失われておりもったいない状況であることから、ハイブリッド授業やオンライン授業のアイデアを交換するような機会を FD 活動として設けてはどうか。(2) 横浜で開講している基礎演習の教育的位置付けが必ずしも明確ではないのではないかという反省から、(3) 授業評価の設問は個々の教員や学科の改善点を把握する上で非常に重要なものであるが、現在の設問で私たちが知りたいことが本当に十分に聞き出せているのか等、改めて各設問を時間をかけて検討してはどうかと提案がなされた。

6/2 1、2 年次 GTEC 結果の報告と分析 横浜英語基礎科目担の関口先生より、1、2 年次のプレイスメントとして実施されている GTEC の結果の報告が行われた。英文学科の入学時からの得点推移や技能別の点数分布等を分析することで英語力の変化を評価し、学科の英語基礎科目のカリキュラムの改善点を検討した。

7/7 オンライン授業の問題点やアイデアの共有と検討 日下先生と Pronko 先生からオンライン授業に関するアイデアや実践経験が共有され、質疑応答を行なった。100 人規模の大人数授業においてもチャット機能等を利用することでインターラクティブな授業やグループディスカッションが可能であること、オンラインでの大人数授業でも話すことが大切であること、またハイブリッド形態のゼミにおいても学生に LINE グループを作らせて LINE 通話を使って教室の学生とオンラインの学生がグループを作ることができること、などが紹介された。

7/28, 9/3 横浜開講科目の基礎演習の改善に向けた検討 英文学科科会での決定を受け、将来構想委員会にて、横浜の基礎演習科目の改善（分野バランスの是正、授業内容の再検討、開講数と履修人

数の再検討) を目指し 2 回に渡り検討を行なった。 また、授業評価の設問についても吟味と再検討を行い、manaba での実施を踏まえ、記述設問を増やす一方で、授業の改善に繋がらない設問の変更もしくは削除が検討された。将来構想委員会の提言は秋学期に学科に報告され審議される。※本委員会は比較的若手の教員を中心として構成される小委員会であるため参加者は英文学科教員の部分集合である。

9/14 非常勤講師 FD 会議 非常勤講師 FD を担当している Pronko 先生と関口先生により横浜の英語基礎科目を担当としている英語ネイティブスピーカーを主な対象として授業運営に関する FD 活動を行った。英文学科では秋学期前と春学期前の年 2 回実施している。

10/5 2021 年度 FD 講演会・FD ワークショップ ■開催場所：オンライン ■主催：FD・教員評価検討委員会 全学的な FD ワークショップとして、各学部の FD 活動の取り組みを発表

10/6、12/1 横浜基礎演習科目の内容刷新について 非常勤 FD 会議の報告と内容の検討を行った。また、横浜基礎演習科目の内容の刷新と拡充について 2 回に渡って議論を行い、白金基礎演習科目(再履修用)を廃止することで横浜基礎演習科目を拡充し、内容もより専門的かつ授業の 3 割程度を英語で行うようにすることなどが決定された。また基礎演習科目担当者についても今後非常勤講師 FD を行い、横浜基礎演習科目の教育内容の刷新を達成していくことが決定された。

1/29 非常勤講師 FD 会議 横浜の英語基礎科目を担当としている英語ネイティブスピーカーを主な対象として授業運営に関する FD 活動を行った。英文学科では秋学期前と春学期前の年 2 回実施している。今回も英語関連科目の授業運営上の問題点やその解決法、効果的な授業テクニックなどの意見交換が行われた。また今回より、基礎演習科目の FD も併せて行い、2023 年度からの基礎演習科目の内容刷新に向けて説明と質疑応答を行った。

2/2 卒論修論発表会について 学科として開催している卒論修論発表会の報告を行い、卒論執筆動機を刺激するという当初の目的を踏まえ、今後の在り方について検討を行った(2022 年度の継続審議議題の予定)。

## フランス文学科

4 月 2 日 第 1 回 FD 学科検討会、6 月 2 日 第 2 回 FD 学科検討会、10 月 5 日 2021 年度 FD 講演会・FD ワークショップ、1 月 8 日 第 3 回 FD 学科検討会、2 月 7 日 第 4 回 FD 学科検討会、3 月 3 日 第 5 回 FD 学科検討会が行われた。

学科検討会にはほぼ構成員全員が参加した。FD 講演会・ワークショップには所属の学科主任・院研究科主任が参加した。

以下活動内容の詳細である。

4/2 第 1 回 FD 学科検討会 ■開催場所：1552 教室

■内容：科会の枠の中で、カリキュラム改革についての議論を行った。とりわけ、2 年次の必修となっている「基礎研究」のコマについての再検討が行われた。このコマは 3 年次から始まるゼミの準備段階として重要な位置づけにあるが、専任教員が横浜校舎で開講できるコマの時限が限られているため、受講人数が偏り、思うような教育上の効果をあげられていない。白金校舎の学科科目について専任教員の担当率をもっと増やすべきとの意見もあり、大学院の担当体制も含めて、専任教員の配置を考え直す時期に来ている。そこで「基礎研究」については、オンラインによるリレー式の講義・指導の形を検討することになり、コロナ後にもありうべきオンラインを活用した教育の一形態として、今後大学に働きかけていくことになった。

6/2 第 2 回 FD 学科検討会 ■開催場所：Zoom 開催

■内容：科会の枠の中で、2019年度から実施している「学年末クラス分け試験」の昨年の試験結果をもとに、学生の学習成果を分析し、今後に向けての教授法を議論。同時に入試種別のデータを参照し、学生の受け入れの観点からも分析した。全体の得点分布をみる限り、コロナ禍によるオンライン授業の影響は目立った形では表れておらず、上位層の割合にも変化はなかった。入試種別で見ると今年度は自己推薦 A0 枠入学者が健闘し、A 日程一般入試利用者のうち英語外部検定利用者の成績がふるわなかった。この検定利用枠は入試での偏差値も低めになる傾向があり、今後、注視していく必要があるとの意見が出た。

10/5 2021 年度 FD 講演会・FD ワークショップ ■開催場所：オンライン ■主催：FD・教員評価検討委員会 全学的な FD ワークショップとして、各学部の FD 活動の取り組みを発表

1/8 第 3 回 FD 学科検討会 ■開催場所：1452 教室

■タイトル：入学前課題および来年度の語学共通教科書についての検討会

■内容：フランス文学科では特別入試の合格者に、入学前課題としてフランスの言語・文学・思想・文化に関わる図書についての小論文を課している。今年度は、より時代状況に即した作品を新たに追加し、図書メディアの入手方法が多様化していることを受けて（オンライン書店での購入が主流＋電子書籍の普及）、対象を文庫本以外の単行本や大手出版社以外の文庫にまで広げてリストを更新した。また来年度のフランス人教員担当の 1 年次必修フランス語の教科書（フランス語版）について、オンライン授業にも対応でき、初学者でも最初から使いこなせる教科書を新たに選定した。選定にあたっては授業担当の非常勤講師の意見も事前に聴取して了解を得た。

2/7 第 4 回 FD 学科検討会 ■開催場所：へボン館フランス文学科共同研究室 ■主催： ■講師：

■タイトル：1 年次学年末クラス分け試験判定会議

■内容：1 月 26 日にオンラインで実施した 1 年次統一語学力テストの結果分析を行った。成績優秀な学生を上級クラス（残り 3 つは通常クラス）に振り分けるための基準点を決定した。担当者による報告の中で、今年度は不正が疑われるケースが見られるとの意見が述べられ、来年度についてはコロナ流行の状況に鑑みつつ、対面での試験（マークシート方式）に戻すことが提案され、了承された。

3/3 第 5 回 FD 学科検討会 ■開催場所： ■主催： ■講師：

■タイトル：非常勤講師へのアンケート分析

■内容：例年、フランス文学科では 3 月に対面で教科書会議を行い、おもに語学をご担当の非常勤の先生方から今年度の授業の感想や共通教科書についての意見を伺うことにしているが、今年度もコロナ流行のためオンラインで実施せざるを得ない見込みであることから、2 月下旬にオンライン授業についてのアンケートを実施し、20 名を超える先生方から回答を得た。科会ではそこに寄せられた意見を紹介し、オンライン授業にともなう問題点は昨年とほぼ同じであることを確認したあと、来るべき春学期に向けての方策を話し合った。

## 芸術学科

5 月 12 日、5 月 31 日、6 月 2 日、7 月 7 日、12 月 1 日に FD 活動検討会を実施し、10 月 5 日に 2021 年度 FD 講演会・FD ワークショップに参加し、2 月 18 日に FD ワークショップを行った。

検討会、ワークショップにはほぼ構成員全員が参加した。FD 講演会・ワークショップには所属の学科主任・院研究科主任が参加した。

以下活動内容の詳細である。

5/12 FD 活動検討会 今年度の FD 活動について学科で検討。学科教員による個々の事案の紹介を中心とした「セミナー／レクチャー」的イベント開催の提案、西堂先生より、古見俊哉：『大学は何

処へ』などをテキストとした読書会／研究会等の催しの提案、長谷川先生より、科会時（主要議題終了後等）のQ&Aセッションのような企画開催の提案など、学科独自のセッションなどを学科独自の取り組みとして今後継続して検討された

5/31 FD 活動検討会 ・総合芸術学コースを将来的にどのようにするか、意見交換・新入生歓迎イベントとして行った1年生ガイダンスについて、学生へのアンケートの回答結果について検討。3ポリシーの中で、カリキュラム・ポリシーとの関連で今後アンケート結果を活かしていくように検討。

6/2 FD 活動検討会 ・秋学期以降の授業形態について、オンライン授業をどのように考えるかについて意見交換をした。・具体的なFD勉強会については、秋学期に長谷川先生にオンライン授業の活用の仕方について講義をしてもらうか、西堂先生に今後の大学の在り方についての講義をもらうか、どちらかの勉強会を実施する方向を確認した。

7/7 FD 検討委員会 ・自己点検チェックリストについて検討。リストを学科で共有し、今後の対応について引き続き議論する。・学科と共同で今後のFDに関する活動 秋学期に専任の遠隔授業の経験とオンラインの可能性について討論会を行う予定が確認された。

10/5 2021年度FD講演会・FDワークショップ ■開催場所：オンライン ■主催：FD・教員評価検討委員会

全学的なFDワークショップとして、各学部のFD活動の取り組みを発表

12/1 FD 検討委員会 ・学科案内、履修要項、アドミッション・ポリシー冊子、学科オリジナルHPなどの改訂について変更内容を確認、各コースの紹介など内容をアップデートし、カリキュラム・ツリーなども含めて、各コースの授業カリキュラム確認と情報発信を改善に向けて検討を重ねた。

2/18 FD ワークショップ 以前から計画していた教員同士での意見交換の場として、西堂先生が昨年度作成した『コロナ禍を生き抜く演劇論』を中心に、コロナ禍で始まったオンライン授業と対面授業についての反省、さまざまな考察、学生とのやりとりなど30分講演してもらい、その後意見交換。対面を希望する学生に対して対面授業を継続することの意味が確認されたと同時に、さまざまな理由で対面を希望しない学生の対応の必要性も確認され、改めて芸術学科におけるオンライン授業と対面授業の在り方、授業でのさまざまなツールの活用法など情報交換、共有し、来年度の授業や学科から学生に発信する情報のありようなどについても積極的な意見交換を行った（1時間40分）。

## 教職課程

以下の活動を行った。課程の検討会には全員が参加した。2021年度FD講演会・FDワークショップには主任が参加した。

4月7日 授業評価の検討等 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任

■内容：昨年度の授業評価の報告と検討。今年度の授業評価票と対象科目の検討。春学期の授業形態の検討（対面、オンデマンド、オンライン等）。

5月12日 今年度のFD活動等 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任

■内容：昨年度の教職課程の授業評価講評の検討。今年度のFD活動について。

6月2日 教育実習への対応等 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任

■内容：教職課程の3ポリシーの検討。コロナ禍における教育実習への対応について（中止者等への対応、代替科目設置等の対応）。

7月7日 春学期の授業の振り返り等 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任

■内容：春学期の授業の振り返り（対面授業からオンライン授業に変更したことの課題等）。教職履修者の人数把握（3年生）と来年度の教育実習等のクラス数の検討。

- 7月28日 春学期の授業の振り返り等 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任  
 ■内容：春学期の授業の振り返り（対面授業からオンライン授業に変更したことの課題等）。教職履修者の人数把握（3年生）と来年度の教育実習等のクラス数の検討。
- 10月5日 2021年度FD講演会・FDワークショップ ■開催場所：オンライン ■主催：FD・教員評価検討委員会 全学的なFDワークショップとして、各学部のFD活動の取り組みを発表。
- 11月9日 介護等体験の進め方の検討 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任  
 ■内容：コロナ禍における介護等体験の進め方の検討。介護等体験レポートの提出状況。評価の検討。
- 12月1日 情報新科目設置の検討 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任  
 ■内容：文科省から要請された情報新科目に関する学則変更の検討。
- 1月12日 教育実習代替科目の検討 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任  
 ■内容：教育学研究（板橋先生、今泉先生）及び教育学研究Bの状況の確認、評価方法の検討。
- 2月2日 オンライン授業の今後 ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任  
 ■内容：対面授業を前提とした中でのオンライン授業のあり方に関する事例検討。
- 3月3日 FD活動の振り返り ■開催場所：オンライン ■主催：教職課程主任  
 ■内容：FD活動状況報告の検討、今年度のFD活動の振り返り。

## 経済学部

経済学部では、今年度も経済学科、経営学科、国際経営学科でそれぞれのカリキュラムの特性を考えて、学科主任が中心となり、学科ごとに独自のFD活動を行った。

### <経済学科>

活動日：5月12日、6月9日、10月5日、1月12日、2月9日

経済学科では、まず初年次教育について例年通り検討した。また、グローバルスタディーズコースでの新任人事を踏まえて、学科のカリキュラムが今後どうあるべきかを議論し、採用方針についても検討した。今後も中長期的に内容を充実させていくために、カリキュラム改革の必要性や担当者の中長期的な計画について情報共有やディスカッションを行った。

活動内容：

#### 5/12 初年次教育について

現行カリキュラムにおける初年次教育の課題と改善点について、ディスカッションを行い、以下のような意見が得られた。①近年、科目数が増加しているが、ローテーションが崩れると非常勤講師の確保も大変であり、学生がこちらの意図通りに履修しているわけでもない。②基礎演習のような少人数授業は喜ばれてはいるが、全員が受講できているわけでもない。一方で入門ミクロ・マクロ経済学は必修だが受講生が非常に多く、教育効果も疑問であり、設備も快適とは言えない。③英コミの授業が資金的な問題から午後にはみだして実施されているため、学科科目を置くことができなくなっている。これらの改善のため、①オンライン授業を部分的に取り入れる、②科目の整理を行うなどの対応策を引き続き考えていく旨、合意された。

#### 6/9 グローバルスタディーズコースの教育について

グローバルスタディーズコースの教育についてディスカッションを行った。本学科の3コースの中で、グローバルスタディーズコースは学生数が多かったが、近年はコロナ禍もあってやや減少傾向で

あるという問題意識が共有された。そのうえで、今後の人事は、現担当者の授業をそのまま引き継ぐのではなく、本コースの特性を踏まえてどういう科目を担当してもらうか考えてから、公募をすべきであるという旨、合意された。

10/5 2021年度FD講演会・FDワークショップ（オンライン主催：FD・教員評価検討委員会）

全学的なFDワークショップとして、各学部のFD活動の取り組みを発表した。

1/12 経済学科今後のカリキュラムについて

表題について以下の2点を議論した。①グローバルスタディーズコースの人事について、留学を必須とはしないが、オンライン授業を含めた海外経験をして、広い視野を育成するようなコースに発展させていくという観点から、担当教科や研究分野を定めて公募をすることが合意された。②数学担当教員の人事について、どのような方が良いのかブレインストーミングを行い、多数のアイデアが提出された。これらに基づき継続審議することとなった。

2/9 経済学科今後のカリキュラムについて

表題について以下の2点を議論した。①グローバルスタディーズコースの魅力を高めるアイデアについて議論した。また人事については、世界経済論・現代社会と経済Aの他、英語での授業ができる方が良いというアイデアが出された。ここまでの議論をもとに、2/24にグローバルスタディーズエリア会議を開催して、公募案を作成することとなった。②数学担当教員の人事に関して議論を行った。数学教育に優れた方が良いという意見と、数学を実社会に実装する研究をしている方が良いという意見に集約されてきた。今後、機構会議で立ち上げられる人事委員会においてこうした希望を伝えることが確認された。

### <経営学科>

経営学科が注力している「少人数教育の充実」をもとに、授業評価アンケートの得点上位教員のデータを分析したり、「オンライン授業の質の向上」のために教員によるレクチャーなどを行った。

活動日 5月12日、6月9日、7月7日、10月5日、10月13日

5/12 授業の質の向上を目指して①

「授業評価アンケートの得点上位者の授業実施方法を参考に、授業の質の向上を図る。」との昨年度のFD活動での合意を受け、総合企画室企画課より得点上位教員のデータを入手した。

FD活動としてどのように取り組めば効果的か、具体的な実施方法（授業見学やレクチャー、他学科との協力etc.）について議論した。

授業評価アンケートの得点上位者である赤松准教授、飯田教授、大竹准教授、齊藤教授の4名の先生方にご協力頂き、学生の理解を促すための工夫やオンラインツールの活用方法等についてのレクチャーを春学期中にオンラインで実施する旨、合意された。

6/9 授業の質の向上を目指して②

「他大学が各授業でどのような取り組みを実施しているか、またそれが学生からどのような評価を得ているかについて理解を深めるため、南山大学の事例を基にFD活動を行った。

南山大学では、学生による授業評価結果について全教員が評価・改善の報告書を提出すべく義務付け

られている。

上記事例について議論した結果、教員による報告書の作成および提出は、少なくとも本学の現状には適さないとの意見が大半であった。また、「非常勤講師選定の際、この報告書により誤った結果を導く恐れがある」との懸念も表明された。"

#### 7/7 EB 教員によるオンライン授業のためのレクチャー①

"授業評価アンケートの得点上位者である赤松准教授および大竹准教授が、学生の理解を促すための工夫やオンラインツールの活用方法等についてのレクチャーをオンラインで実施下さった。

ゼミ等ディスカッション型少人数授業では、文献検索の方法や論文執筆の際の注意点、報告資料の作成方法等を Teams や Zoom 上でリアルタイムで画面共有し、担当教員が実際に行ってみることで、学生が自律的に実行できるよう工夫されていた。

大人数講義科目では、アクティブラーニングを効果的に行うために、適宜グループアウト機能を活用することで、学生が発言しやすい環境が作られていた。"

#### 10/5 2021 年度 FD 講演会・FD ワークショップ (オンライン主催:FD・教員評価検討委員会)

全学的な FD ワークショップとして、各学部の FD 活動の取り組みを発表した。

#### 10/13 EB 教員によるオンライン授業のためのレクチャー②

"授業評価アンケートの得点上位者である飯田教授および齊藤教授が、学生の理解を促すための工夫やオンラインツールの活用方法等についてのレクチャーをオンラインで実施下さった。

特に飯田教授は、オンライン授業の質の向上のために新たに個人で購入なさった Web カメラやマイクを使い、授業をデモンストレーションしたり、実際の授業の録画風景(履修学生から見た画面の様子等)を映し出し、わかりやすく解説して下さい。機器を有効活用できれば、オンライン授業の質は格段に向上することがよくわかった。"

#### <国際経営学科>

活動日:5月8日、5月12日、6月9日、7月7日、7月28日、9月8日、10月5日、10月6日、10月13日、10月23日、11月3日、11月6日、12月4日、12月8日、1月12日、2月9日、3月3日

国際経営学科は、2022年度からのカリキュラム改革に向けた話し合いを中心にFD活動を行った。

#### 活動内容:

##### 5/8 授業相互参観@PSA1

必修学科科目の Preparation for study abroad 1 では学科教員によるオムニバス講義を提供しているが、FD 活動の一環として授業担当教員間で授業の相互参観をおこなった。

##### 5/12 現行カリキュラムの議論@学科会議

現行カリキュラムの問題点を聴取し、改善に向けた意見を教員間で共有した(基礎科目、専門科目 I・II、EBC、カリキュラム留学、1年間に履修できる単位数の上限など)。それに合わせ教員人事の方針について議論した。

##### 6/9 現行カリキュラムの議論@学科会議

前回は引き続き、現行カリキュラムの問題点を聴取し、改善に向けた意見を教員間で共有した。学生の目的意識の明確化、成長と達成感を促すための施策（マインドセット、コンピテンシー、プロジェクト、リサーチメソッドに関連）、効果測定調査について議論をおこなった。

7/7 現行カリキュラムの議論@学科会議

カリキュラム改革のこれまでの検討内容と課題点について概要説明をおこなった。一部、学則変更をとまなう、カリキュラムの変更が承認された。ワーキンググループを設置し、カリキュラム改革の検討を引き続きおこなっていくことが承認された。

7/28 第1回カリキュラム改革ワーキンググループ

国際経営学科のカリキュラム改革WG ロードマップ（案）を策定し、内部資料としてメンバー間で情報共有ならびに議論をおこなった。

9/8 第2回カリキュラム改革ワーキンググループ

Global Leadership Program（仮題）のパイロットの導入案を策定し、内部資料として基本方針やプログラムの特徴、期待されるメリットなどをとりまとめた。

10/5 2021年度FD講演会・FDワークショップ（オンライン主催：FD・教員評価検討委員会）

全学的なFDワークショップとして、各学部のFD活動の取り組みを発表した。

10/6 第3回カリキュラム改革ワーキンググループ

Global Leadership Program の募集要項や履修モデルについて検討をおこなった。

10/13 現行カリキュラムの議論@学科会議

国際経営学科ルーブリックの検討をおこなった。

10/23 授業相互参観@PSA2

必修学科科目のPreparation for study abroad 2では学科教員によるオムニバス講義を提供しているが、FD活動の一環として授業担当教員間で授業の相互参観をおこなった。

11/3 第4回カリキュラム改革ワーキンググループ

ルーブリックのヒアリングなどをまとめて改訂をおこなった。アンケートにより学生のGlobal Leadership Programに対する期待度について調査をおこなった。

11/6 授業相互参観@PSA2

必修学科科目のPreparation for study abroad 2では学科教員によるオムニバス講義を提供しているが、FD活動の一環として授業担当教員間で授業の相互参観をおこなった。

12/4 授業相互参観@PSA2

必修学科科目のPreparation for study abroad 2では学科教員によるオムニバス講義を提供してい

るが、FD活動の一環として授業担当教員間で授業の相互参観をおこなった。

#### 12/8 現行カリキュラムの議論@学科会議

国際経営学科のカリキュラムや人事に関する今年度の変更点や今後の方針について資料を用いてとりまとめた。

#### 1/12 現行カリキュラムの議論@学科会議

"2022年度カリキュラム留学に向けて、3月の可否判断や将来の不確実性によって生じうる問題点などを検討した。RIASEC自己診断ツールとして学年全体向けに厚生労働省のジョブカードを、GLP生には英語でのHolland Code (RIASEC) Testをテスト的に導入することなどを検討した。"

#### 2/9 現行カリキュラムの議論@学科会議

2022年度カリキュラム留学に向けた今後の方針と具体的な進め方について検討した。

#### 3/3 2021年度FD活動の総括@学科会議

2021年度FD活動の総括を学科会議にて実施した。2022年度カリキュラム留学に向けた今後の方針と具体的な進め方について更新、検討した。

### 社会学部

#### 1. 社会学部2021年度FD活動

まず、昨年度から検討を重ねた入学前教育プログラムについて、合格から入学までの期間が相対的に長い特別入試合格者に絞り、有料で実施することとなった。(従来は学部予算負担)これに伴い、教育内容を充実させるため、複数回の打ち合わせ、ミーティングを行った。初回は、21年3月16日に業務委託先候補である駿台グループエスエイティーティー株式会社担当者、学部執行部が面談、教育内容等の概略を聞き、こちらの希望を伝えた。この内容を4月両学科会で共有、また初年次教育担当教員からのヒアリングを行った結果を踏まえ、4月定例教授会にて提案、審議し、両学科とも共通内容で実施することを決定した。今年度実施分は、特に日本史及び世界史の近現代史が社会学部教育では重要であり中心的に取り上げるよう、さらに、集中し学習できるよう映像を用いた授業を取り入れるよう業者に要望した。結果として、社会科科目は比較的良好な成績との報告を受けたが、一方で国語の成績が全体的に低いとの指摘もあり、今後の課題となっている。

これに加え本年度は大学予算による学部「FD講演会」を、執行部で企画し、教授会の議を経て、2回の講演会を開催した。概要は下記のとおりである。

第一回；7月28日駿台予備学校・日本史科・田部圭史郎氏「高校における社会科教育の現状と社会学部との接点」、

第二回；9月22日駿台教育研究所進学情報事業部部长・石原賢一氏「高校生の進路および大学選択の現状～高校生が望む大学のあり方について～」

講演会を通して、高校社会科教育の現状や高校生の意識、また、進学に大きな影響力を持つ保護者の意識などを理解することができ、それらをふまえた受験生への広報のあり方など多くの示唆が得られた。10月5日に全学で実施されたFDワークショップでは、この2回の講演会の報告を行い、参加者アンケートでは、講演会実施について高い評価を得ることができた。

さらに昨年度ピアレビューにて「教員任用、昇任に関する基準が曖昧である」との指摘を受けたため、5月教授会で「明治学院大学社会学部教員の昇任及び任用に関する内規（案）」を提案、承認された。従来から存するその他の内規を含め、学部教員間で共有することを目的とし、teams ファイル内に内規集を設け、学部内部公開とした。

## 2. 学科別 FD・学習会

### (1) 社会学科

#### ①学科 FD 研修会

活動日：7/28

内容：授業カリキュラムの改善について、3つのワーキンググループの答申が行われた。(1)基礎教育WG：アカデミックリテラシー、社会学基礎演習、2年次のコース演習の内容検討を行い、アクティブラーニングが高校で定着したことを前提に、大学ではグループワークを脱却することなどが提案された。(2)量的データ授業WG：使用するソフトウェアの検討などを提案した。社会調査士関連授業の整理が必要であるとされた。

#### ②学科非常勤講師・対話会

活動日：7/29

内容：学科の非常勤講師と授業運営に関する打ち合わせをオンライン(zoom)で行った。非常勤10名、常勤9名が参加した。レポートでの不正に対する対応、対面とオンラインそれぞれの特性をどのように生かして授業を行うか、<https://mguolg.info/>などの情報の共有を行った。

#### ③学科 FD 研修会

活動日：3/11

内容：7月研修会に続き、1年間授業カリキュラム見直しをしてきたWGのまとめ。特に2年時カリキュラムを、より学習意欲を高めるものに変えていく方策について話しあった。特に①社会調査の授業と、②メディア実践の授業について、前者は導入としてt検定やカイ二乗検定までの理解を学生全員にさせること、後者は学生のニーズに応じメディアの現場にいる方を積極的に招聘する(現在の「表現法演習」のバージョンアップ)などの提案があった。①では社会調査実習室業務の将来構想についても話し合った。これらのまとめとしてカリキュラム全体の「学びの見取り図」の更新も提案された。

### (2) 社会福祉学科

#### ① 学科 FD 研修会

活動日：7/28・2/21

内容：春学期、秋学期に1回ずつ、社会福祉学科の将来構想を検討するFD研修会を実施した。春学期は、将来構想に関するワーキングチームの提示するデータに基づく検討を行った。秋学期は、開発コースのエリア見直しやそれに伴う人事計画を含めて、今後の学科のあり方を検討した。

## 法学部

### 1. 授業公開

例年、法学部では春学期と秋学期に教員間で授業公開を行ってきたが、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、政治学科を除く3学科では授業公開は中止した。

### 2. 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表

2013年度から、e-Learning上または学部オリジナルH.P.上で、定期試験の問題と解説または講評を公表している。2021年度の春学期成績評価および定期試験については、8月23日（月）から9月13日（月）までの3週間、公開した（既定の期間以上掲載するかは各教員の判断に委ねている。秋学期も同様）。秋学期定期試験については、3月2日（水）から3月22日（火）までの3週間、公開した。2021年度は、対面・オンラインまたはハイブリッドの授業が行われたが、オンライン授業が比較的多かったため、どのような内容・要素でいかなる基準により、各科目の成績評価を行ったかを中心に説明するとともに、一部定期試験実施科目については、その解説・講評の公表を行った。なお、定期試験問題・課題レポート等の公開は任意としている。掲載場所は、e-Learning (manaba) 上の「コースコンテンツ」または「コースニュース」のいずれか、もしくはe-Learning上で公開をしない教員のために学部H.P.上に掲載場所を設けた。

### 3. 法学部4学科のFD活動報告

#### ◇法律学科の2021年度のFD会議・活動等

- (1) オンライン授業マニュアル（改訂版）等の配布：今年度は、コロナ禍2年目を迎え、オンライン授業にも各スタッフがある程度習熟したため、オンライン授業の講習会は開催しなかったが、消費情報環境法学科の高橋順子准教授作成による「遠隔授業実践マニュアル2021年度版」を4月4日に法学部全スタッフに配信し、オンライン授業の技術向上に対応した。
- (2) 初年次教育検討会：2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止したが、2021年度はオンライン会議システム（Teams）により、法律学科・消費情報環境法学科・グローバル法学科合同で、特別入試合格者向けの英語・国語の入学前教育の報告・成果分析会議を開催した。なお、特別入試合格者は、2021年度は全員参加した。
- (3) 法律学科会議におけるFD検討会：法律学科会議にあわせてFD検討会を7回開催し、オンライン授業について意見交換・自己点検認証における改善指示に対する検討対処・次年度の授業方針（対面・オンライン併用等）・次年度カリキュラム・授業評価アンケートのやり方・フレッシュャーズ研修のあり方などを議論・検討した。
- (4) 法曹コース運営委員会：年間で、4月14日、5月12日、5月19日、8月5日、1月12日、3月18日の計6回の法曹コース運営委員会を開催し、法曹コースの学生指導、第1期生の進路決定・面談等、法曹コースカリキュラム検討、次年度第3期生募集・連携先他大学法科大学院との連携協議等に関し、法曹コースの運営全般について検討する機会を設けた。毎回の教授会において、法曹コース運営委員会での決定事項等を報告し、学部スタッフからの意見聴取や全体での意見交換を行った。
- (5) FD講演会：FD・教員評価検討委員会主催の全学的なFDワークショップとして、法学部のFD活動の取り組みについて、葛谷政治学科主任が法学部4学科を代表して報告した。
- (6) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表：上記2参照（全学科共通）。

#### ◇消費情報環境法学科の2021年度のFD会議・活動等

- (1) オンライン授業マニュアル（改訂版）等の配布：今年度は、コロナ禍2年目を迎え、オンライン授業にも各スタッフがある程度習熟したため、オンライン授業の講習会は開催しなかったが、消費情報環境法学科の高橋順子准教授作成による「遠隔授業実践マニュアル2021年度版」を4月4日に法学部全スタッフに配信し、オンライン授業の技術向上に対応した。（1）4月14日に学科FD会議を開催し、学科カリキュラムや授業評価実施対象科目の条件および消費者法教育のあり方等について検討を行った。

- (2) 初年次教育検討会：2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止したが、2021年度はオンライン会議システム（Teams）により、法律学科・消費情報環境法学科・グローバル法学科合同で、特別入試合格者向けの英語・国語の入学前教育の報告・成果分析会議を開催した。なお、特別入試合格者は、2021年度は全員参加した。
- (3) 消費情報環境法学科会議におけるFD検討会：消費情報環境法学科会議にあわせてFD検討会を5回開催し、消費者法教育のあり方、入試制度のあり方および学科の将来構想等について意見交換や議論・検討した。
- (4) FD講演会：FD・教員評価検討委員会主催の全学的なFDワークショップとして、法学部のFD活動の取り組みについて、葛谷政治学科主任が法学部4学科を代表して報告した。
- (5) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表：上記2参照（全学科共通）。

#### ◇政治学科の2021年度のFD会議・活動等

- (1) オンライン授業マニュアル（改訂版）等の配布：今年度は、コロナ禍2年目を迎え、オンライン授業にも各スタッフがある程度習熟したため、オンライン授業の講習会は開催しなかったが、消費情報環境法学科の高橋順子准教授作成による「遠隔授業実践マニュアル2021年度版」を4月4日に法学部全スタッフに配信し、オンライン授業の技術向上に対応した。（1）4月14日に学科FD会議を開催し、学科カリキュラムや授業評価実施対象科目の条件および消費者法教育のあり方等について検討を行った。
- (2) カリキュラム検討委員会：6月23日、カリキュラム改革を念頭に、コース制の導入可否、カリキュラムの体系性、フィールドワーク、アカデミック・リテラシー、実務家講座などの検討課題について、意見交換した。
- (3) 政治学科対面授業実施状況ならびに予定についてのアンケート：7月1～5日にかけて、秋学期に向けての参考にするため、春学期対面授業科目（全員）の対面実施状況と秋学期対面実施予定科目（全員）の実施予定について書面によるアンケートを実施し、主任が結果をとりまとめ、共有した。
- (4) 政治学科会議におけるFD検討会：6月23日実施のカリキュラム検討委員会の検討内容を共有し、来年度よりフィールドワークについて一部やり方を見直すことを決定した。
- (5) 授業公開：12月1日～27日にかけて、葛谷教授、毛教授、久保准教授、佐々木専任講師の授業公開（対面）を行った。
- (6) FD講演会：FD・教員評価検討委員会主催の全学的なFDワークショップとして、法学部のFD活動の取り組みについて、葛谷政治学科主任が法学部4学科を代表して報告した。
- (7) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表：上記2参照（全学科共通）。
- (8) FD推進ワークショップ（新任専任教員向け）：8月5日、佐々木専任講師が、日本私立大学連盟の主催のFD推進ワークショップに参加した。

#### ◇グローバル法学科の2019年度のFD会議・活動等

- (1) オンライン授業マニュアル（改訂版）等の配布：今年度は、コロナ禍2年目を迎え、オンライン授業にも各スタッフがある程度習熟したため、オンライン授業の講習会は開催しなかったが、消費情報環境法学科の高橋順子准教授作成による「遠隔授業実践マニュアル2021年度版」を4月4日に法学部全スタッフに配信し、オンライン授業の技術向上に対応した。
- (2) 初年次教育検討会：2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止したが、2021年度はオンライン会議システム（Teams）により、法律学科・消費情報環境法学科・グローバル法学科合同

で、特別入試合格者向けの英語・国語の入学前教育の報告・成果分析会議を開催した。なお、特別入試合格者は、2021年度は全員参加した。

(3) グローバル法学科会議およびFD検討会：FD検討会を3回、および6回の学科会議にてFD関連の課題等を検討した。具体的には、これまでのカリキュラム運用上の問題点を学科構成員全員で検討していくこととした上で、カリキュラム改革、後任人事方針、今後の学科のあり方などについて検討した。また、1年次の学科必修科目について担当者の代表がそれぞれの科目の実施内容と学生の達成度、課題などについて報告し、学科カリキュラムの問題点と変更を優先させるべき科目についても意見交換を行った。

(4) FD講演会：FD・教員評価検討委員会主催の全学的なFDワークショップとして、法学部のFD活動の取り組みについて、葛谷政治学科主任が法学部4学科を代表して報告した。

(5) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表：上記2参照（全学科共通）。

#### 4. 総括

2021年度法学部のFD活動報告は、上記の通りであるが、コロナ禍2年目を迎え、FD会議および学科会議が徐々に対面開催になり、昨年度に比べて、FD活動が活発に行えたという点は、特筆に値する。また、春学期は、コロナ禍が悪化し、大部分がオンライン授業であったが、その中でも、全学科の複数少数の教員が学生達への教育効果を重視し、対面授業を行い、それに基づく成果等の報告・検討会も行われた。あわせて、学部全体および各学科とも、コロナ禍とどう付き合いながら有意義な教育を実施すべきかを真剣に論じ、教育の方法等に新境地を拓くための建設的な議論や意見交換を行うことができた。また、オンラインでの対応ならではの施策の検討（e-learningシステムの全学部スタッフの積極的活用など）を行えた。その成果として、全てのスタッフがe-learningシステム（manaba）を使用して、新たな教育メソッドを各自がその能力に応じて、使いこなせる域にまで達したことをあげることができる。ただし、昨年度と同様、学生の満足度（アンケート調査等によれば）は、教員各自のmanabaの活用程度に応じて、格差があったことも否めない。今後、こうしたシステムの使用と活用の学部全スタッフの技能の平準化と、このシステムと対面授業との併用におけるより効率的な授業運営と教育方法の確立が引き続きの検討課題であることが学部の全スタッフで共有された。

最後に、2年間のオンライン授業、対面・オンライン併用型の授業を通じて、全学科のFD会議等で、オンラインシステムの効用が明確になったが、他方で、学生・教員とも、教育効果および教育のあり方の点では、対面授業が望ましいことがあらためて認識・確認されたといえる。

以上

#### 国際学部

##### 【国際学部FD総括コメント】

国際学部では、学部全体に関わる課題についてのFDと、学科ごとに扱うのが適当と考えられるテーマについてのFDとに分けてFD活動を実施した。前者は学部長、後者は各学科主任がそれぞれ主宰した。

##### I 学部全体

学部全体に関わる課題としては、インバウンド学生への支援と英語教育プログラムのあり方、さらに、学部教育の礎となる教員配置（「群」制度）の実情をとりあげ、毎回、主報告者による発議を受けて自由に議論を交わした。いずれの回にあっても、教員間での共通理解を促進するだけでなく、学

部教育のさらなる進化に向けてとるべき手立てについて考えを巡らすことができた。FD 活動についてはその記録を学部データ・ベースに保存し、教員によるアクセスがいつでも可能な状態にしてある。

インバウンド学生への支援については、学部を超えた課題であるとの認識が共有されたことから、全学的な FD としても取り上げるよう働きかけ、後刻、「明治学院大学におけるインバウンド学生の現状と課題」としてバージョンアップしたものが、2 度にわたり Cloud Campus 動画として配信されることとなった（1 回目が 2021 年 11 月 9 日～12 月 8 日、2 回目が 2022 年 2 月 15 日～3 月 31 日）。1 回目について、視聴は教職員あわせて 56 名、その反応はきわめて良好で、アンケートにも真摯に答えてもらうことができた。ここでは、アンケート記載内容に関わって以下の 3 点を指摘しておく。

- 1) 視聴者の部局が多岐に渡り、これまで気づかなかった大学院事務室や健康支援センターなどでも部局固有の課題があることが確認できた。
- 2) 目下は国際学部のみに限ってサポートを行なっているが、他の学部や部局所属の方々からは、是非とも全学展開が望ましいとの声がほとんどであった。
- 3) 各部局の対応の課題が浮き彫りになり、何を目指して行くべきかが明確化された。どういう仕組みでこれを実現して行くのかが今後の課題であることが確認できた。

## 2 国際学科

国際学科では、1) カリキュラムにおける専攻のあり方の再検討、2) 学内外の学習を有機的に結びつける方法、の二つを中心に検討した。2) は、コロナ禍による学外活動の制約も意識しつつ実施した。重要な意見交換の場となった一方で、今後に向けた反省点として、次の 2 点が指摘できる。

- 1) 日程の制約から同一日に開催される学科会と教授会との間の時間を使って実施せざるをえないことが多く、十分な時間を確保できないことがあった。
- 2) FD における議論を学科会や各種委員会を通じて教育体制に反映させる経路が十分に確立されておらず、活動を実践に結び付ける上で課題がある。

## 3 国際キャリア学科

国際キャリア学科では、FD 活動を通じ、次のような成果を手繰り寄せることができた。

- 1) カリキュラムツリー（履修系統図）を完成させ、2022 年度の履修要項に掲載し、在学生に対するガイダンスで使うことができるようになった。
- 2) KC のカリキュラムを、Issues-based Approaches to Global Studies として概念化する作業を行い、その素案を作成することができた。引き続き作業を進め、2022 年度中の完成を目指している。

## 心理学部

心理学部では、各学科の FD 研修会を年に複数回、学部および大学院で行う FD 研修会を年に 2 回実施している。

2021 年度心理学科の FD 研修会は、以下のように開催された。

<心理学科 FD 講習会>

・2021年4月27日(水) Qualtrics 講習会—Qualtrics の概要・使い方について—

講師：齋藤俊樹（早稲田大学基幹理工学部・日本学術振興会）

教員が講師のインストラクションに従いながら実際にパソコン上でQualtricsを操作し、教員の研究および学生の卒論・修論指導に使えるように、調査の実施方法等について習得した。

<心理学科授業力アップのための研究会>

毎回、1～2名の教員が発表者となり、担当科目で工夫している点や課題と思われる点、学生の様子等について共有し、活発な意見交換が行われた。

第1回 2021年6月2日(水)

2020年度および2021年度のコロナ禍における授業（オンライン、オンラインと対面の併用、対面）と学生の様子、オンライン授業のメリットとデメリットについて。全教員より報告がされ、現状と問題点が共有され、今後の対処について検討した。

第2回 2021年7月7日(水)

発表者 伊藤拓教授（心理学演習1A, 2A） 川端一光准教授（心理学統計法）

第3回 2021年10月6日(水)

発表者 金城光教授（心理学演習2A, 2B・卒業研究）卒論・ゼミ論提出前チェックリストの共有。

第4回 2021年11月3日(水)

発表者 田中知恵教授（消費者心理学）

第5回 2021年12月1日(水)

発表者 平子雪乃助教（心理学演習1A, 1B） 滑川瑞穂専任講師（検査法実習）

第6回 2022年2月2日(水)

発表者 西園マーハ文教授（人体の構造と機能および疾病）  
野末武義教授（社会・集団・家族心理学Ⅱ）

第7回 2022年3月2日(水)

発表者 野村信威准教授（心理学概論・生涯発達心理学）  
萩野谷俊平専任講師（心理学演習1A, 1B）

2021年度教育発達学科のFD研修会は以下のように開催された。授業における工夫や課題の工夫にとどまらず、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの一貫性についても活発な議論が交わされた。

<教育発達学科FD研修会>

第1回 2021年7月7日(水)

テーマ：対面／オンライン／ハイフレックスによる授業実施における諸問題

発表者：辻宏子教授（算数） 手塚千尋専任講師（図画工作）

第2回 2021年11月3日(水)

テーマ：教育発達学科のアドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの一貫性の検証。入試成績と入学後の成績の観点からの検討。

2021年度心理学部・大学院心理学研究科の合同FD研修会は以下のように開催された。2020年度に

研究サバティカルを取得した教員より、研究成果および進捗状況の報告がされ、活発な議論が行われた。

<心理学部・大学院心理学研究科合同 FD 研修会>

第1回 2021年6月30日(水) 2020年度研究サバティカル報告

川端一光准教授(心理学科) 杉山恵理子教授(心理学科)

第2回 2021年11月3日(水) 2020年度研究サバティカル報告

中村敦雄(教育発達学科) 野末武義(心理学科)

### 教養教育センター

2021年度教養教育センターFD活動について、以下の通り報告する。

下記のFD活動のうち、教養教育センターが独自に主催したものが8件(色付け)で、外国語担当教員(英語・初習語)による4回の研修会、さらにキリスト教学、健康スポーツ部門の研修及び講演会、教材作成を念頭においたICTスキルを高めるための研修会が開催された。また9月にはポストコロナにおける大学について精力的に発言しておられる吉見俊哉氏の講演会を開催し、新しい時代の大学像を考えるうえで大きな刺激を得ることができた。詳細については、教養教育センター以外の大学内外の部署が主催したFD活動とともに以下を参照されたい。

活動日	活動内容	詳細
5/26	2020年度 Hope College 交換派遣 教員 報告会	主催：国際センター 発表者：趙星銀国際学部准教授 [派遣期間：2020年8月～2021年3月] 日程：5月26日(水)13時30分～14時 ※国際センター委員会冒頭 実施方法：オンライン(TeamsによるWeb報告会)主催：国際センター 概要：HopeCollegeの交換派遣教員として参加した事前研修、学期期間中の実践報告が行われた。配慮が必要な学生に対する大学の対応や、Moodleを活用した授業実践内容、図書館の資料の有効活用法、その他、コロナ禍故にとられた対策についても報告があった。
6/19	英語コミュニケーション1 AB担当 者研修 会	主催：教養教育センター 英語コミュニケーション1ABを担当している非常勤講師と専任教員(MacLellan, Elam, Thomas)を参加者として実施された。専任教員が講師となり、Manabaを使用してテストを作成する方法について2時間のワークショップを行った。また非常勤講師 Galichet-Honda Valerie氏からもManabaを拡張するためにリッチメディアをどのように使用していたか、例が提供された。研究会テーマ：Manabaテストの基本操作方法 (一般的なManabaテスト要件/Manabaテストについてのブレインストーミング/Manabaでテストセクションを構築するためのリソースの使用/PDFベースのManabaテスト/リッチメディアコンテンツでManabaを拡張ほか)
6/27	JACTFL 特別講演 会	主催：JACTFL(日本外国語教育推進機構) 講演題目：「CEFRとCARAP(FREPA) - AI時代に求められる教授法、それは文法・訳読式教授法 -」(講演者：大木充京都大学名誉教授、オン

		ライン) 概要：第一部では CEFR のおさらいと再評価が行われ CARAP (FREPA) の紹介も行われた。第二部では AI 時代にこそ文法・訳読式教授法が求められるという旨の講演が行われた。これに対して、参加した本学教員間では、少なくとも大学単位、あるいは言語科目単位で複言語主義に対する共通した理念とコンセプトが共有されており、それに沿った教材があるという前提でなければ、この主張は通りにくいのではないかという議論が行われた。
7/24	立教大学主催公開講演会	主催：立教大学 題目：公開講演会「複言語主義に基づいた大学教育実践への取り組み～仏独西中朝英の教育現場から」 本学登壇者：大森洋子（スペイン語）、西香織（中国語） 概要：CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）および複言語主義が広く認知されるようになり、両者に基づく新たな外国語教育の必要性が説かれている中、現在と今後の取り組みについてフランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・朝鮮語・英語教育に携わるパネリストが各外国語教育について概要を説明し、大学教育における新たな外国語学習の可能性を模索する討論を行った。
9/3	外国語教育 FD 研修第 1 弾	主催：教養教育センター 題目：「人や世界とつながるアクティブ・ラーニングにおける ICT 活用について」（ワークショップ） 第 1 弾 「Padlet を活用した授業実践」 講師：岩居弘樹 氏（大阪大学サイバーメディアセンター教授） 概要：Padlet を中心に ICT ツールを駆使して、学生の能動的な学びを促進できるような授業実践をご紹介いただいたうえで、各ツールの効果的な利用方法についてワークショップ形式で学び、質疑応答を行った。
9/7	外国語教育 FD 研修第 2 弾	主催：教養教育センター 題目：「人や世界とつながるアクティブ・ラーニングにおける ICT 活用について」（ワークショップ） 第 2 弾 「Moodle を利用した外国語の授業」 講師：清原文代 氏（大阪府立大学高等教育推進機構教授） 概要：オンライン授業をより豊かにし、より幅広いテスト方法などで学生の能力を測れるよう、主に外国語教育部門で導入している Moodle を中心に、効果的な使い方についてワークショップ形式で学び、質疑応答の機会を持った。
9/11	キリスト教科目担当者懇談会	主催：教養教育センター 題目：共通テキストの利用とキリスト教教育のオンライン実施について 開催方法：Zoom 10:30～12:00 概要：共通テキストの利用についての 3 名の非常勤講師による発表、課題についての議論を行った。またキリスト教教育のオンライン実施の功罪についての討論を参加者で行い、オンデマンド型と対面授業が Zoom などのライブ授業と比較して教育効果が高い可能性があることを共有し

		た。
9/12	第 4 回 JACTFL オンラ インシ ンポジ ウム	主催：一般社団法人 日本外国語教育推進機構（JACTFL） 題目：コロナ禍で推進する高校・大学の国際化ーこれからの国際交流のあり方を考えるー 概要：コロナ禍でストップした高校・大学の国際交流が、この間の様々な取り組みを経てどのように変化し、また現在どのような展望が見えはじめているのか？各校の担当者が報告し、今後の国際交流の在り方について討論された。
9/14	FD 講演 会	主催：教養教育センター 題目：大学はもう死んでいる？：ポストコロナ時代の大学のゆくえ 講師：吉見俊哉 氏（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授） 概要：大学が移動の自由と多様な人的交流の上に成立しているとの歴史的前提の上に、現在、複数の意味で時間の壁がこれを束縛していると指摘、時間のマネジメントとしての大学改革を実践する必要性を説いた。また、幅広い世代に価値反省的な文系学問と接する機会を設け、教育・研究に加えて社会実践を行い、地球人をつくる大学の将来像を説いた。その後、本学の現状に即して約 60 分の討論がなされた。
10/5	大学 FD 講演会	主催：FD・教員評価検討委員会主催 発表者：各学部長、学科主任等 日程：10月5日(火)10時55分～12時30分 実施方法：オンライン(Zoom) 概要：各学部・センターより FD 活動の紹介。教養教育センターからは篠崎美生子主任が吉見俊哉 氏（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）の講演内容について報告。
11/9 -12/8 2/15 -3/31	全学 FD 「明治 学院大 学にお けるイ ンバウ ンド学 生の現 状と課 題」	主催：国際学部 発表者：渡辺 恵美子（教養教育センター非常勤講師） 発信者：特色ある教育プロジェクト「国際化教育の展開と検証」インバウンド学生支援プログラム 実施方法：オンデマンド（Cloud Campus） 概要：本学で学ぶ外国にルーツを持つ学生たちが何を必要としているかについてまとめた報告。

11/24	国際センター講演会 「国際学部でのUC科目、英語による講義のヒント」の開催について	<p>主催：国際センター</p> <p>日時：2021年11月24日（水）13時30分～14時 ※国際センター委員会冒頭</p> <p>発表者：半澤朝彦国際学部教授</p> <p>開催方法：TeamsによるWeb報告会</p> <p>概要：カリフォルニア大学生（UC生）の履修授業を担当してこられた半澤朝彦国際学部教授による、授業プランの概略や学生の反応や傾向についての講演。</p>
2/21	外国語教育FD研修	<p>主催：教養教育センター</p> <p>日時：2022年2月21日（月）13時00分～16時00分（オンライン）</p> <p>題目：「これからの外国語教育を考える——英語そして英語以外の外国語の『力』を育成するために」</p> <p>発表者：境一三先生（慶應義塾大学、ドイツ語）、池田真先生（上智大学、英語・CLIL）、阪堂千津子先生（東京外国語大学他、韓国語）、大森洋子先生（本学、スペイン語）</p> <p>概要：境氏、池田氏による講演、阪堂氏、大森氏による実践報告、パネルディスカッションの三部構成で、各外国語のスキルアップに必要な「力」とは何か、どのような授業実践方法があるかなどについての話を聞き、見識を深めた。</p>
3/11	FD研修	<p>主催：教養教育センター</p> <p>日時：2022年3月11日（月）16時00分～17時00分（対面、横浜校舎体育館・セミナールーム）</p> <p>題目：「共生社会と障がい者」</p> <p>講演者：宮田理氏（教養教育センター非常勤講師）</p> <p>概要：各障がいの処遇の違いを歴史の変遷と共に理解を深め、教育、福祉、医療など、さまざまな分野で目標の対象とされる「共生社会」の成り立ちや概念、そして共生社会の実現に向けての課題を「持続可能な開発目標（SDGs）」と併せて、教育現場で取り扱うスポーツの在り方について考察した。</p>
3/16	FD研修	<p>主催：教養教育センター</p> <p>日時：2022年3月16日（水）10時00分～11時30分（オンライン）</p> <p>題目：「ICTスキルアップ講座 Word」</p> <p>講師：西香織（本学教養教育センター教授）ほか</p> <p>概要：Microsoft Word そのほかの基本機能を覚え、教育効果の高い教材作成を目的とした講座を開催した。意外と知られていない裏技などを身につけるきっかけとした。初・中級編としたが実際にはレベルの高い質</p>

		問が多く寄せられた。	
--	--	------------	--

以 上